



6月号

平成5年6月1日

発行/編集

岡崎市教育委員会

「やるぞ」という真剣な目
 「よし!」という輝いた目
 好奇心が勝っていた去年とは違う
 その目が私を見つめる

「これでいいのだろうか……」
 「どうしてうまくいかないのか!」
 声に出せない声を
 その目で私に訴える

一年たった君たちは それでも
 去年の君たちと同じ目をした後輩に
 照れくさそうに 少し嬉しそうに
 でも ちよつと威張って
 覚えてきたことを教えている

頼もしくなった
 しかし 揺れ動く心
 悩んで大きくなれ!
 そして私も成長しよう
 今、伸びゆく君たちと共に

〈先輩になった日〉



(うまくできるかな一南中)

— 教育随想 —



師道・史道の歩み寸感

前市史編さん事務局長

岩月 栄治

「菊づくり 菊みる時は かげの人」(吉川英治) 私はかげの人どころか、皆さま方に導かれ支えられて、教職四十年(師道)、市史編さん十六年(史道)後の、今があるのだとしみじみ思っている。そこで肌と心に感じたひとつを述べてみよう。

◇現職中、社会科学教師のひとりとして痛感してきたことは、多くの社会科担当教師の、地歴教材への研究と分析(精選化・焦点化)の弱さと最も大切なモチベーション(動機づけ)キーリング(鍵・手がかり)の与え方のまずさである。さらに点(事実認識)線(関係認識)層(価値認識)といった、地歴学習の構造・過程を、子どもの思考・認識の流れによる、授業研究の不足である。

〔現職中、旧市史を読んだ社会科学教師が少なく、このため社会科学副読本や歴史読物「岡崎歴史物語・岡崎の歴史・岡崎の人物史」などを、学校教育課のご理解と若干の補助を受け、委員の先生方と刊行した。〕

このような教材研究・授業法の研修は、子どもが確かにわかる学習のためにも、避けて通れぬ定めである。◇現職を去り直ちに新編岡崎市史の編さんをした。幸いにも本年三月末、全二十巻の刊行を完了して、肩の荷がおりた思いである。思い出は濃く過ぎた年月は瞬時のように淡いが、その思いのひとつをあげてみよう。市史づくりは、一言でいえば歩き調べ、選びまとめ、考え綴り、作り売ることであろうが、各編共そう簡

単ではない。喜びは新史資料の発掘とインクの匂う新刊を手にした時であり、悩みは行政と委員先生たちの調整・原稿遅れで予定通り刊行できないことなどであった。しかし上司のご理解に甘え、委員先生の公務の余暇をさいの励み、市民の方々のお陰で、幕を閉じることができた。

また頒布推進のため、ご依頼があれば市政だよりなどでPRに努め、休日・代休日には生涯学習の一環として下手な講話も続けた。思えばよく学び、生き甲斐のある仕事をさせていただいた。ひたすら感謝・報恩奉仕の心のみである。幸いにも蒐集資料・標本も数万点に達し、委員先生・職員の研究物などと共に、建設予定の美術博物館に活用されることである。しかしこうした一貫継続の仕事は、健康でなくてはならない。編集委員先生では三名が逝去され、正副委員長先生も病魔に侵された。凡人の私は老醜も出たであろうが、一応健康で勤めさせていただいた。

今はただ「小さきは小さきままに花咲きぬ 野辺の小草の安けさよ」というような平安な心境である。重ねて皆さま方にお礼を申し、寸感といたします。

(いわつき えいじ)



いろいろあるよ 生活科

生活科指導員

熊谷 光男

「教科書にでているから、お祭りをやらないといけないようだ。」

「お祭りだから、夜店を作らせないと……。」

「おみこしを作り、はっぴも着せないと……。」

「笛や太鼓もないと……。」

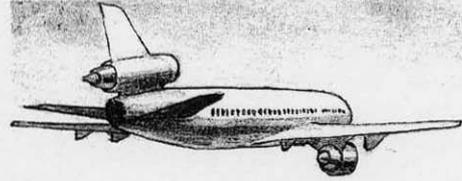
「要するに、お祭りをやって楽しく遊ばせれば……。」

こんなお祭りの授業が全国のいくつかの学校で実践されたようだ。お祭りの単元に限らず、他の単元においても、これと似たような授業風景が見られるようである。

その結果、全面实施をしてわずか一年で、これではよいのか生活科"などという、とんでもないことが堂々と話題にのぼるようになってきた。まさに、生活科存亡の危機とも考えられる。

ふるさとシリーズ

この人に聞く



OIAカルチャー

クラブ主宰

三橋美千子 氏

「カルガモがいますでしょ。いつかは家から水と山が見える所に住んでみたいと思ひまして、七年前にここに家を建てたんですよ。」

すぐ下を乙川が流れ、遠くに三河の山々が一望できる竜美丘会館のすぐ東の、国際交流に貢献されている三橋先生のお宅を、ある土曜日の夕方訪れた。

玄関を入ると、あたかも昔からの友人のように、とても明るい笑顔で私たちを出迎えてくださった。

「着物コンサルタントの資格を取りまして、三十歳より『着物親善使

節団』として二十数か国を訪れまして、それぞれの国で日本の文化を紹介してきたんです。」

と、国際交流に携わったきっかけ等について話していただいた。

現在は、OIA（岡崎国際交流協会）カルチャークラブを主宰されている。平成元年四月、五十歳の記念に何かしなくてはと思ひたち、毎月第二日曜日に自宅を開放され、岡崎市在住の外国の方を中心にホームパーティーを催されるようになった。

参加された方の国の自慢料理を交えて作ってもらいながら、楽しい雰囲気の中で、着物の着付けや書道、お茶、マナー等、日本の文化を紹介されている。

「日本人は、すべてに完璧でない気がすまないみたいですね。だから、英語を話すにも、自分に自信が持てないと、とても消極的になつてしまふんですよ。私は、五十の手習いで英語を勉強し始めたんです。だから、まだまだしつかりと話すことはできないんですが、十分通用しますよ。向こうの方たちは、そういう点では積極的です。見てください、この葉書。」

その葉書には、英語と日本語が入り交じって、いかにも温か味が伝

わつてくるようなものであった。

「私は、このボランティアで、人生が豊かになりましたね。ボランティアは、人のためのものではなく、自分のためにやるものですよね。だから、それほど構えることなく、気軽に気長に気持ちよくやりたいですね。」

と、笑顔でボランティアに対する心構えを教えてくださいました。

大変気さくな人柄に魅せられている間に、いつしか時が過ぎるのを忘れてしまい、お宅をあとにした時はすっかり外は静まり返っていた。

氏 名 みつはし みちこ
生年月日 昭和十四年二月六日
住 所 東明大寺町六一三



しかし、A小学校のY先生やM小学校のK先生の授業を参観すれば、そんな心配は全く吹き飛んでしまうであろう。

Y先生のお祭りの授業であった。

子供たちがグループに分かれ、学区に伝わるお祭りを調べてきて、それを発表する場面であった。子供は自信に満ちた顔をして、自分の言葉で発表していた。とても二年生の子供とは思えないほどであった。ここで大切なことは、なぜ子供たちがそんな自信いっぱいであったのかということである。それは授業が進むにつれ見えてきた。

○教師の思いからでなく、子供の興味・関心から学習がスタート

○保護者とのパイプが太くて密

○お祭りの関係者への依頼が万全

この三点から、子供たちは十分に調べ、発表できたのである。いわゆるやらせのお祭りではなく、子供が創るお祭りの土台となる授業であった。表に出ないところでの教師支援のあり方を知ることができたと思う。

【推薦する専門書】

『生活科授業研究』（月刊誌）

『生活科の授業づくりQ&A』 明治図書

中野重人著 明治図書

花火で有名な菅生神社の夏祭りは津島神社の流れをくむ天王祭である。同じ天王祭でも、岡崎市の東部には、珍しい竿灯祭りが行われている。

本宿町の「祇園祭」

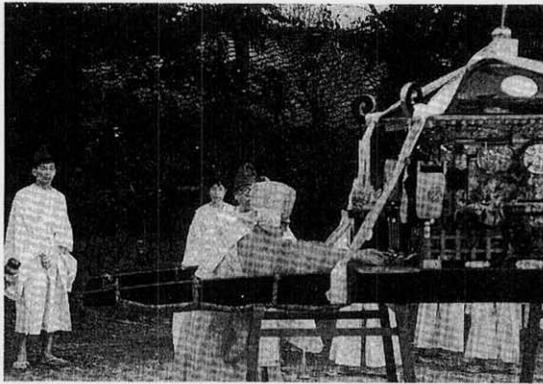
本宿町では、毎年八月第一日曜日に祇園祭が催される。この祇園祭は天王祭のことである。法蔵寺の和尚さん、神主さんが神輿の中の神様にお参りした後、青年が手筒花火を上

げて祭りが始まる。昔は「ちようちん祭り」と呼ばれ、神輿と各字の提灯が町内を練り歩いていただけであったが、昭和初期になると、飾りつけをした荷車に子供が乗って、笛や太鼓を鳴らすようになった。さらに花火ややぐらを担いで練り回るなど、にぎやかな祭りになってきた。この祭りの主役である山車が造られたのは昭和十年で、栄町が最初であった。



岡崎東部の竿灯祭り

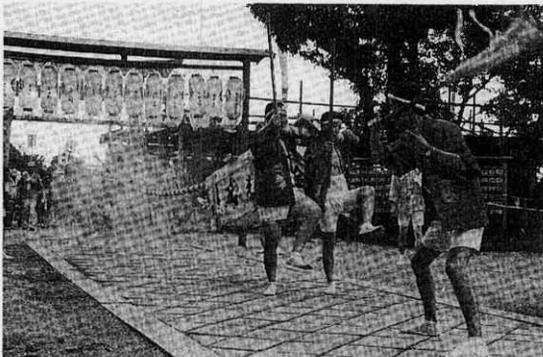
▲ 竿灯を持って町内を練り歩く (本宿)



▲ 珍しく僧侶が神輿に参拝する (本宿)



▲ 町の青年による手筒花火は約250発 (本宿)



▲ 花火の入った長持ちを担ぐ (菅生)



▲ 昭和初期建造の山車をひく (本宿)

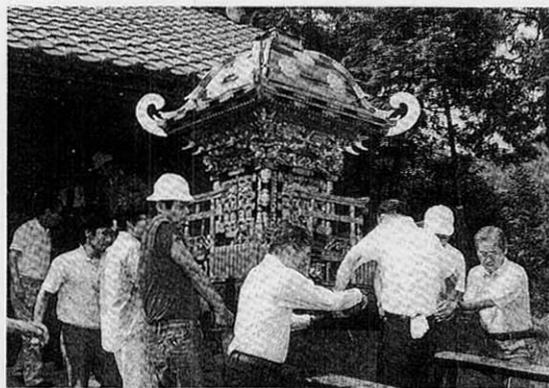
羽栗町の「お天玉さん」

お天玉さん祭りは「竿灯祭り」ともいい、七月の二十日前後の土曜日に定められている。竿灯は町内の十三組がそれぞれ一本ずつ出す。支柱に三段の腕木があり、上から二個・四個・六個、計十二個つける。梵天に傘のついた飾りは傘梵天といわれ、西三河では羽栗だけといわれる。神



▲ 子供連に続いて町内を練る竿灯行列（羽栗）

事の後、花火を合図に、年行事・子供連・神官・神輿（以前は年男たちが、担いだ）の順に進む。道中、手筒や子供花火が盛んに出される。火をつける行為には災い除けとか虫除けの意味があり、この竿灯祭りは、主に夏の疫病予防と虫送りのためである。今日、竿灯の行列は本宿町・市場町・羽栗町が知られている。



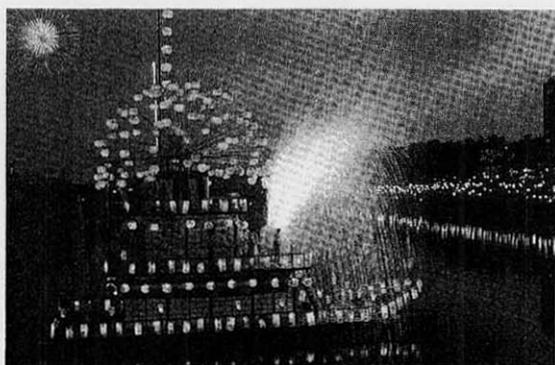
▲ 年行事は天王社から神輿を出す（羽栗）



▲ 子供神輿は日中に練り歩く（羽栗）

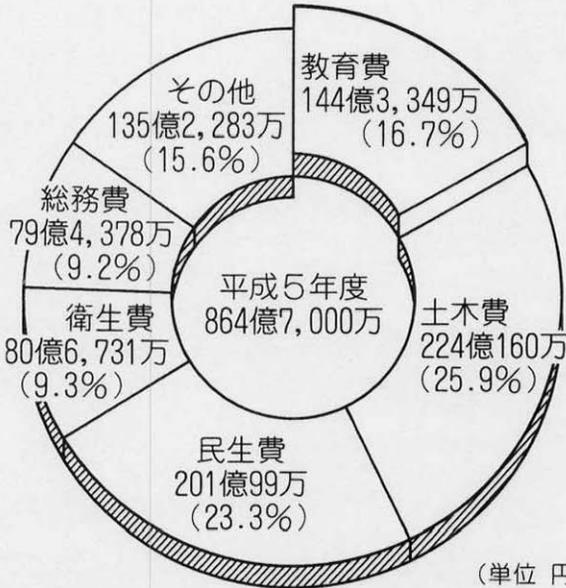


▲ 祭りに使用する傘梵天の準備（羽栗）



▲ 菅生川に浮かんだ鉦船と手筒花火（菅生）

〈一般会計予算〉



夢と希望に満ちた
香り高い文化をめざして

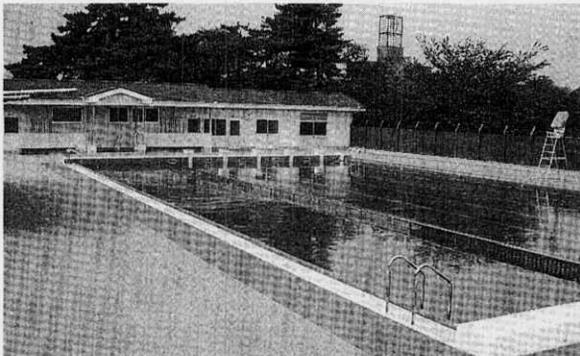
岡崎市の教育予算

◆ 本年度の特色 ◆

- ① 義務教育施設の整備
 - ・ 校舎建設 小・中学校 二校
 - ・ 校舎大規模改造 中学校 二校
 - ・ 屋内運動場建設 中学校 一校
 - ・ プール建設 小学校 一校
 - ・ 用地取得 中学校 一校
 - ② 冷・暖房設備の設置 小学校 三十校
 - ③ 生涯学習フェスティバル事業(新規)
 - ④ 図書館情報システム構築事業(新規)
 - ⑤ 美術館施設整備事業(新規)
 - ⑥ 視聴覚教材保存整備事業(新規)
 - ⑦ 美術館・博物館建設事業(新規)
 - ⑧ 国民体育大会
- 岡崎市実行委員会補助金(改定)



葵中屋内運動場建設(平成4年度)

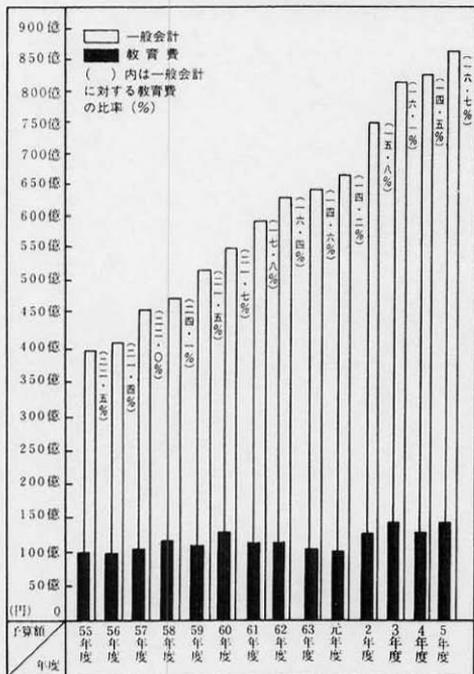


根石小プール建設(平成4年度)

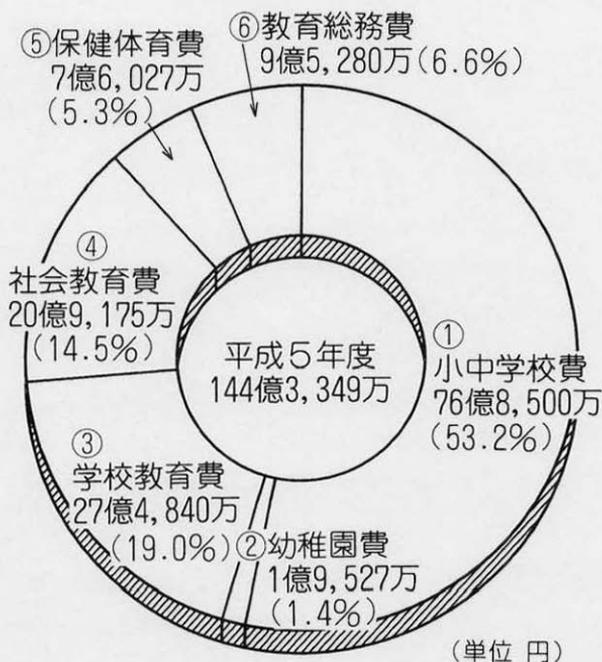


甲山中屋内運動場建設(平成4年度)

◆一般会計予算額と教育費の推移◆

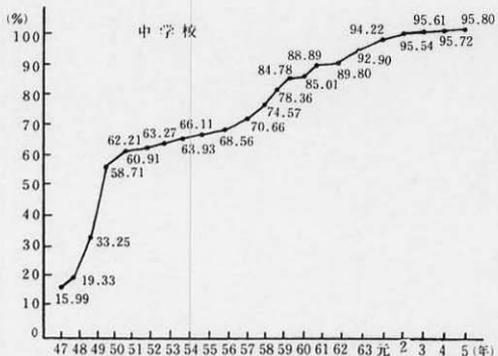
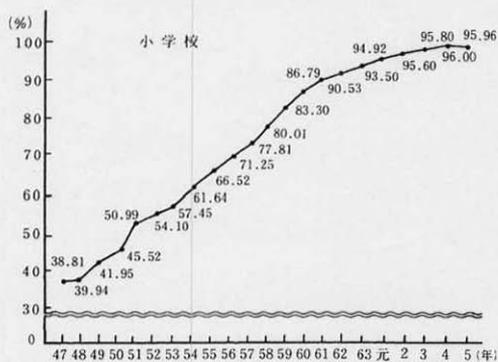


〈教育費の内訳〉



◆校舎鉄筋化率の推移◆

(数字は各年5月現在の百分率)



◆ あらまし ◆

- ①小中学校費
 - ・校舎建設 (藤川小学校、六ッ美中学校)
 - ・校舎大規模改造 (岩津中学校、六ッ美中学校)
 - ・屋内運動場・柔剣道場建設 (矢作中学校)
 - ・プール建設 (井田小学校)
 - ・用地取得 (福岡中学校)
- ②幼稚園費
 - ・市立幼稚園3園管理事務経費など
- ③学校教育費
 - ・日本語教育講師派遣事業 (日系ブラジル人・中国人児童生徒の日本語教育)
 - ・中学校部活動指導事業 (民間指導者派遣)
- ④社会教育費
 - ・生涯学習フェスティバル事業
 - ・岡崎市民芸術文化行事開催事業
 - ・図書館情報システム構築事業
 - ・美術館施設整備事業
 - ・視聴覚教材保存整備事業
 - ・美術館・博物館建設事業
- ⑤保健体育費
 - ・国民体育大会岡崎市実行委員会補助金
 - ・国体広報活動の推進及び先催県視察調査・国体リハーサル大会の開催 (新規)
- ⑥教育総務費
 - ・私立高校授業料補助金
 - ・私立幼稚園入園料補助金
 - ・岡崎育英会学生寮運営費補助金

ふれあい

一途な子どもの思い

六北小 後藤 充人

飛び出し一步は、死の一步。Y男が作った交通安全の標語は今、I家具店前に立てられている。これには一つのわけがあった。

四年社会科の「交通事故と安全な町」の学習は、同学年の友達との交通事故現場（I家具店の交差点）の検証からスタートした。

六箇所で朝・昼・夕方の三回に分けての交通量の調査と学区を歩きながら地図に安全施設を書き入れる交通安全施設調べ、さらに通行人からのインタビューなどいくつかの体験的学習を試みた。

事故の現場を検証したY男は「事故のあったI家具店の所には信号機をつけた方がいい」と話した。これに対して、

他の児童は「信号機をつける」と、片方の細い道はよけ合ってもできないほど狭いので渋滞する。だから、つけない方がいい」と、反論した。

そこで、警察のおじさんを学校へ招いて、話を聞いてみることにした。話し合いの結果、実際にはつけることが不可能だということがわかった。

そこで、Y男は、「だがI家具店の所は危険だ。なんとか、ぼくたちで協力できる方法はないだろうか」と考えて、PTA主催の学区の交通安全標語づくりにも、参加することになった。



これが、I家具店前に掲げられたY男の標語のいきさつである。

チャンピオンになれ

上地小学校長 深津 武司
恩師 山本 忠男先生

山本忠男先生は、今から三十九年前、葵中三年生の時の恩師です。卒業後もずっとご指導をいただいています。

山本先生の授業で最も印象深いのは「桶狭間の戦い」でした。先生は「織田の軍勢三千、今川は三万。今、今川の軍勢は三河の地を越えようとしている。君たちは、織田の軍士として、どのような戦いをするつもりか」と問う。私たちは一瞬迷いましたが、その後四十分の間にいくつもの戦略が出て、厳しくかつ楽しいものでした。その授業は今も鮮明に心に残っています。卒業の日、山本先生は「ど



の道に進もうと他の人に負けないものをつつくれ、その道のチャンピオンになれ」と。瞬間、ピストルの号砲が教室中に響きわたりました。「今スタートした。みんな頑張れ。」

あれから三十九年が過ぎましたが、卒業以来、クラス全員が毎年誕生祝いの手紙をいただいています。

昨年四月から上地小学校の保護者に向けての学校通信、「学校だより上地」を贈らせていただいています。

「上地九月号ありがとう。いつも充実した内容で感心している。学区のこと、教室のこと、よく子供を捉えている。学校も今むずかしい時期に入っている。いざという時に対処できるように……。」

「一年間の実践の集約『ふるさと上地6』ありがとう。校長先生をはじめ、教頭先生の優れた古窯跡群の論文というべき記事、単なる情報誌以上に高めるものと思えます。」

「校長通信の中に、理科の目が教育理念と共に光っている。『チョロロー』がどうしてレインボータワーに登るのかという記事も面白かった。」

このように毎月温かい言葉をいただいています。よいところ、直していきたいところなど、親切なご指導をいただけるのも恩師であるからと感激をしているところです。

我が同級会の名称は「チャンピオン会」です。今なおチャンピオンにはなれませんがクラスとの団結は強く、山本先生のご指導をいただきながら励まし合って進んでいます。

● 学校・学級の規模(市内平均)

	小学校	中学校
1校当たり 児童・生徒数	595人	725人
1校当たり 学級数	18学級	21学級
1学級当たり 児童・生徒数	33人	35人

・ 中学生の部
六ツ美北中

・ ファンファーレ隊
竜美丘小・六ツ美北部小

〈集団演技〉

・ 式典音楽

▼ 第四十九回国体秋季大会
開・閉会式出演団体

— お知らせ —

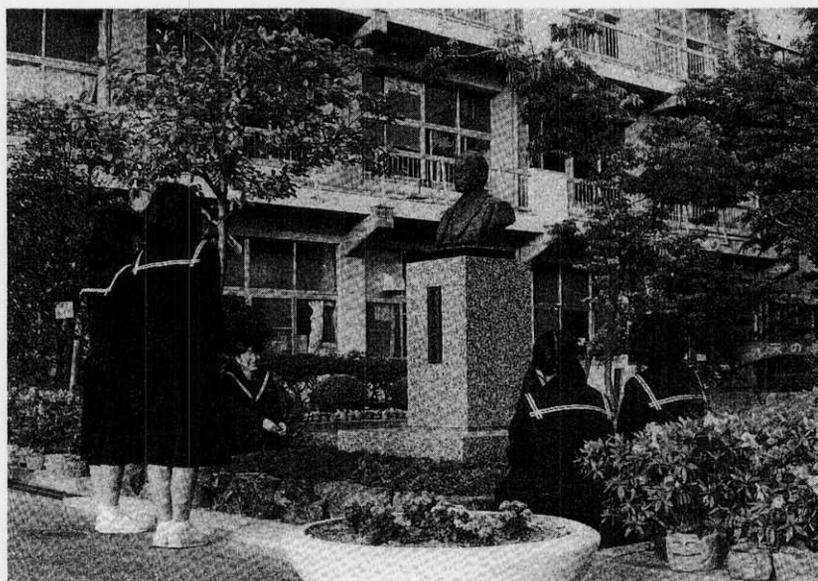


● 児童・生徒・教職員数の実態

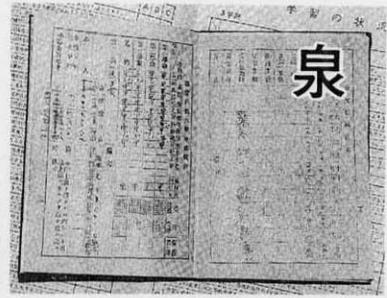
区分	学校数 (校)	学級数 (特殊) (学級)	児童・生徒数 (人)			校長・教職員 (人) (非常勤講師を含む)			養護教員 (人)		事務職員 (人)		栄養職員 (人)
			男	女	計	男	女	計	県	市	県	県	
小学校	41	738(35)	12,469	11,943	24,412	446	639	1,085	42	44	1	6	
中学校	18	372(20)	6,614	6,441	13,055	432	246	678	18	26	10	2	
合計	59	1,110(55)	19,083	18,384	37,467	878	885	1,763	60	70	11	8	
4年度計	59	1,155(56)	19,424	18,726	38,150	898	803	1,701	59	69	13	8	

● 学年別児童・生徒数(人)

学年	小 学 校			中 学 校			学年	男	女	計	
	男	女	計	学年	男	女					計
1年	1,946	1,878	3,824	4年	2,159	2,044	4,203	1年	2,101	2,103	4,204
2年	1,998	1,971	3,969	5年	2,118	2,022	4,140	2年	2,221	2,183	4,404
3年	2,148	2,009	4,157	6年	2,100	2,019	4,119	3年	2,292	2,155	4,447



創立百周年を機に新しく
なった本道光太郎先生胸像。
たゆみない努力と創意工
夫の大切さを私達に語りか
け、輝かしい明日を見つめ
ています。



本宿小学校蔵

児童手牒

この児童手帳の表紙は、厚手の紙で黒の布張りになっていゝる。本宿尋常小学校に明治四十年に入學した児童のもので、一年生から六年生までの足跡が記録されている。

最初のページを開くと、勅語が示され「朕惟フニ我カ皇祖 皇宗國ヲ肇ムルコト…」の文字が見え、当時の教育の方針がうかがい知れる。次は学校行事で、四月一日

入學式、十月三十日勅語下賜記念式執行、二月十一日紀元節儀式執行などが定められている。ページをめくると、見開きの左ページに成績表と身体検査表が記入できるようになっている。

成績表には、修身、国語、読書綴、算術、歴史、地理、理科、図画、唱歌、体操、裁縫、手工、農業、操行などの学科がみられ、甲・乙・丙という段階で、第一学期、二学期、三学期、通年に分けて表されている。現在の通知表のような観点別の評価は見られない。

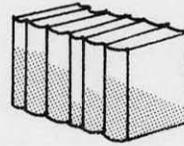
また、賞罰という欄も設けられていて、第一等賞、第二等賞という表現で書いてある。右ページには出欠席の統計が記入されている。

全体の内容からみると、今の通知表と出席簿と健康手帳を合わせて、六年間にわたり記録していたものといえる。

・表紙写真
・表紙詩
・カット

南 南 中 中 中
葵 南 中 中 中
金 澤 一 幸
神 尾 美 孝
鈴 木 洋 美

この本を



- | | | |
|-----------|-------|-------|
| * 遠い「山びこ」 | 佐野 眞一 | ¥1500 |
| 文藝春秋 | | |
| * おとなの論理 | 諸井 薫 | ¥1300 |
| 東洋経済新報社 | | |
| * 徳川家康 | 山本 七平 | ¥2000 |
| プレジデント社 | | |
| * 安曇野 | 丸山 健二 | ¥1900 |
| 文藝春秋 | | |

- * こころの歳時記 ひろ さちや ¥1400
徳間書店

日本の代表的な行事や風俗・習慣などを素材にして、興味あるエピソードを織り込みながら、「はて、私達のものの方・考え方・生き方はこれでいいのか」と、示唆に富む話題を提供してくれる。

日本人の生活や生活感情は、変化に富む豊かな風土の中で育まれたものであるが、国際化の進む中で、これまで美德とされていたものも見直しを迫られている。

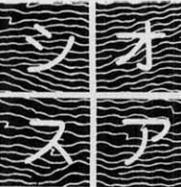
洒脱軽妙な語り口で、次々と常識が覆されていく小気味よさが魅力である。

乙川に遊ぶ二羽のカルガモの姿を、国際交流に貢献されている三橋先生のお宅の居間から見た。誰とでも心を開き、普段のお付き合いをされる、国際人にふさわしい先生と、仲むつまじいカルガモはびったりと調和し、心が和む思いがした。

菖蒲・あやめ・杜若……と、よく似た花が次々と咲きはじめた。

晴れた日には、さわやかな風をさそい、雨にうたれてはみずみずしさを感じる。まさに時の花である。

同じ時の花である紫陽花は、梅雨時のイメージが強く、何となく重苦しい。



朝の挨拶を交わす校門から、一日の学校生活がスタートする。弾んだ笑い声や元気な顔に交じってK君の姿がある。昨年は一日も登校できなかったが、この二か月、欠席は無い。「おはよう」の声に返事こそないが、うつむき加減の顔も次第に上を向きつつある。

菅生祭りをはじめとする夏祭りの季節が近づいてきた。八月の第一土曜日、菅生川には鉾船が浮かび、手筒花火も打ち上げられる。

市東部の本宿町、羽栗町では珍しい竿灯祭りを行っている。市内には、ぜひ一度は見た祭りがある。まだまだ多い。